

播種前の低温処理が不要なソラマメ新品種「鹿児島4号」の開発

「鹿児島4号」は、「唐比の春」に比べ、しみ症は少なく商品収量は同程度で、播種前の低温処理が不要で労力削減が可能

背景・目的

- ・ 慣行品種は、開花促進のために播種前の低温処理が必要（催芽後、3℃で約1か月冷蔵庫で保管）
- ・ 台風後の欠株対策など、低温処理種子を大量に準備しておく必要があり、労力およびコストが大
- ・ 低温処理が不要なソラマメ品種の育成が必要

成果の内容

【「鹿児島4号」の特性（低温処理した「唐比の春」と比較）】

- ・ 開花期、開花節位は同程度で、低温処理なしでも開花が安定
- ・ 主枝、節間長は長く、茎径が太く草勢が強い
- ・ 商品重量は同程度、L莢率は低い
- ・ しみ症の発生率は低く、むき実率は優れる
- ・ 莢および子実の大きさは同程度

表1 「鹿児島4号」の特性

品種・系統名	開花期	開花節位 (節)	栽培終了時の生育			商品莢重量 (kg/a)	L莢率 (%)	しみ症発生率 (%)	むき実率 (%)	莢重さ (g)	子実重さ (g)
			主枝長 (cm)	節間長 (cm)	茎径 (mm)						
鹿児島4号	10月12日	5.0	160	4.5	14.4	258	59.1	2.7	28.2	55.3	4.5
唐比の春	10月11日	4.7	139	3.9	11.7	242	66.0	5.1	26.0	61.3	4.5



「鹿児島4号」



「鹿児島4号」「唐比の春」



「鹿児島4号」「唐比の春」

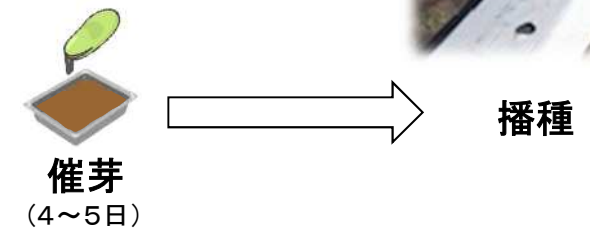
期待される効果

- 低温処理が不要となり、4時間の作業労力が削減可能

【慣行】



【鹿児島4号】



- 強風等で欠株被害を受けた場合に迅速な播き直しが可能
- 普及対象・範囲
ソラマメ生産者